金価格の上昇と変動相場制

昨日は米国の CPI が予想より高い数字が出て、米国債のイールドは上昇(価格下落)、ドル指数も若干上昇したが、株価は下落せずに上昇した。

金融市場での政策金利のフェドファンド金利の見通しは若干利下げ見通しが後退した感はあるものの、6 月から利下げの開始と年 3 回（4 回の可能性も）の見通しに変化はない。

今月はＦＯＭＣがあり金利は据え置くのが確実だが、メンバーの金利予想(ドットプロット)が示される。前回示された年三回の利下げ予想が今回も維持されると思われるが、注目には値する。

こうした中で最近興味深い動きを示しているのが金価格だ。ニューヨーク金先物は 2200 ドルを突破し高値を更新した。金上昇の背景にはドル金利の低下見通し、地政学的リスクの高まり、中国をはじめとする中央銀行の買い、それに中東、インドなど伝統的に金志向の強い国の需要増などが挙げられる。それに通貨価値に対する不信が高まる時も金は買われる。

そもそも日本などが採用している変動相場制は 70 年代初めに固定相場制から移行したものだ。基軸通貨だったドルへの不信が高まり、一オンス 35 ドルに固定した金価格を維持できなくなり、ドルを中心とした固定相場を放棄せざるを得なくなった。金はドルに対して切り上げられたが、それでも相場を維持できず変動相場制に移行した。ドルは金の裏付けを失い自由に変動することになった。

その点では変動相場制は通貨不信の結果生まれる面がある。最近ではエジプトポンドが変動相場制に移行する。エジプトはインフレや景気低迷で経済は苦境にあり、昨年も通貨エジプトポンドを大幅に切り下げた。だがイスラエルとハマスの戦闘でスエズ運河の運行料収入が大幅に減少し、苦境に輪をかけた。ブラックマーケットと公式の為替レートの差は広がるばかりで、再度大幅にポンドを切り下げ、ブラックマーケットに近づけ変動相場に移行する。これには IMF や UAE からの資金援助が前提にある。

またアルゼンチンも今年後半には変動相場制に移行する見込みだ。新大統領は既にペソを大幅に切り下げブラックマーケットのレートに近づけたが、いよいよ公約通り変動相場に移行するつもりだ。

中国やロシアなどBRICS諸国をはじめグローバルサウス諸国にはドル不信から金志向が増加している。こうした動きが想像以上に広がりを見せている可能性がある。そうでなければドル金利の低下見通しなどの要因だけで現在の金価格の上昇基調を理解するのは無理がある。